

アットシング
@Sing

vol. **15**

「主体的に学習に
取り組む態度」の
育成と評価に向けて

【実践例】

佐賀市立川副中学校
立川市立立川第二中学校



最新高校入試動向

連載

教材活用講座

進学教材の活用で学習習慣の定着を

「主体的に学習に 取り組む態度」 の育成と評価に向けて

- 1 「学びに向かう力」と「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価
- 2 実践例 1
～佐賀県佐賀市立川副中学校～
- 3 実践例 2
～東京都立川市立立川第二中学校～

教育情報誌「@Sing」では、これまで継続的に、新しい学習指導要領の改訂点をご紹介してきました。
今号では、新学習指導要領で育成を目指す資質・能力のうち、「学びに向かう力」に焦点を当て、その育成と評価の実践に力を注いでいる中学校2校の取り組みをご紹介します。

CONTENTS

〔特集〕

「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価に向けて 1

「学びに向かう力」と「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価 2

実践例① 佐賀県佐賀市立川副中学校 4

実践例② 東京都立川市立立川第二中学校 8

参考書籍のご紹介 12

最新高校入試動向 13

近年の高校入試の変化 14

最新入試動向 【国語】 16

【社会】 17

【数学】 18

【理科】 19

【英語】 20

〔連載〕

教材活用講座 第5回 進学教材 編 21

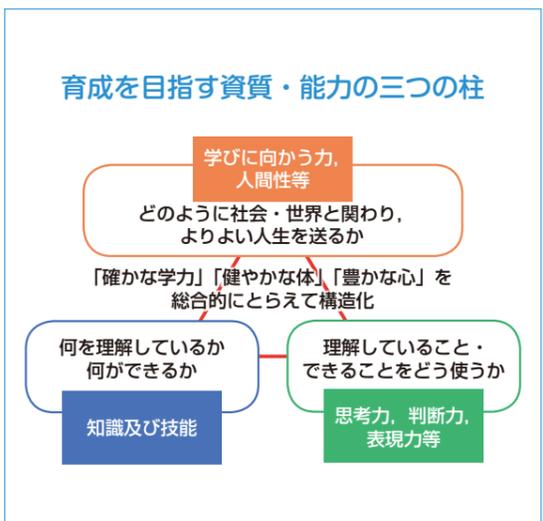
朝学習と「新研究」を使った自学自習で、学習の習慣作りを 22

「中学セミナー」で学習のしかたを学び自分で学習する習慣を身に付ける 24

「学びに向かう力」と「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価

次期学習指導要領の「学びに向かう力」とは

平成二十九年春に告示された次期学習指導要領において、身に付けさせたい資質・能力の柱の一つとして、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」に加え、「学びに向かう力、人間性等」が示された。



この「学びに向かう力、人間性等」は、ほかの二つの資質・能力をどのような方向性で働かせるかを決定付ける重要な要素と位置付けられており、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力

- 自己の感情や行動を統制する力
- よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度
- 自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含む
- 人間性等に関するもの
 - 多様性を尊重する態度
 - 互いのよさを生かして協働する力
 - 持続可能な社会づくりに向けた態度
 - リーダーシップやチームワーク
 - 感性
 - 優しく思いやり など

も幅広く含んだものと定義されている。これらの力を身に付けることにより、生徒一人ひとりがよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくことができ、また、社会や生活の中で様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる」とされている。

「学びに向かう力」の評価

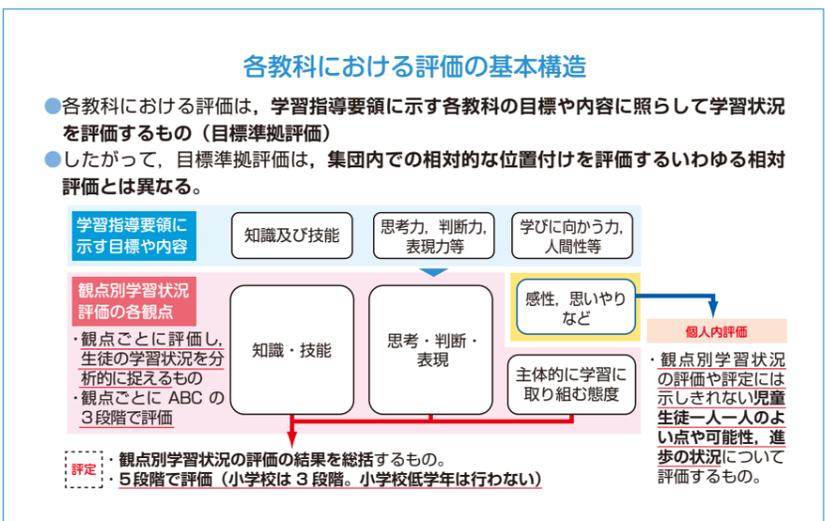
このように、次期学習指導要領では、各教科の目標や内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理して示された。

これにより、目標に準拠した評価について、小・中・高等学校の全教科で、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点で観点別評価ができるようになった。

三観点のうち、「主体的に学習に取り組む態度」は、資質・能力の三つの柱の中の「学びに向かう力、人間性等」に対応した観点であるが、「学びに向かう力、人間性等」には

- ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分
- ②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示し切れないことから個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分

の二つの側面があるため、目標に準拠した評価の観点としては①の側面のみを「主体的に学習に取り組む態度」として扱っている。（左図参照）



「主体的に学習に取り組む態度」については、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動ではなく、「子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげる」といった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうか

という、意識的な側面を捉えて評価することが求められる」とされている。したがって、

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

という二つの側面を評価することが求められる。

「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価

「主体的に学習に取り組む態度」を育成し、適切に評価するためには、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるよう発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図ることが重要になってくる。

具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることが考えられる。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。したがって、例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではないことに留意する必要がある。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習指導要領に記載の〔知識及び技能〕から、その単元で育成すべきものを選び、文末を下記のようにする。 例) ○○を理解している／ ○○の知識を身に付けている ○○することができる／ ○○の技能を身に付けている	学習指導要領に記載の〔思考力、判断力、表現力等〕から、その単元で育成すべきものを選ぶ。 例) 各教科の特質に応じ育まれる見方や考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている	左に引用した学習指導要領の〔知識及び技能〕を主体的に身に付けたり（付けるとともに）、〔思考力、判断力、表現力等〕の中から、その単元の最重要課題を「～しようとしていたりする」として示す。

▲各単元の評価規準の考え方の例

今号では、「主体的に学習に取り組む態度」の育成に取り組んでいる学校の中から、「自己を大切に、志をもって主体的に学び活動する生徒の育成」という教育目標掲げる佐賀県佐賀市立川副中学校と、「学校や地域の伝統や歴史を誇りに思い、主体的に学習や諸活動に取り組む生徒の育成」を経営理念とする立川市立立川第二中学校の実践事例を紹介する。

佐賀県佐賀市立川副中学校

「主体的な学び」を支える資質・能力の育成と学力向上

佐賀県佐賀市立川副中学校では、「夢や目標をもち主体的に学び活動する生徒の育成」という教育目標を掲げ、様々な特色ある教育活動を行っている。その中でも平成25年度より取り組んでいる「主体的な学びを支える資質・能力の育成と学力向上」という実践は、数年にわたって研究と改善をくり返してきたもので、生徒の学び姿勢の変化や学力向上といった結果も表れ、他校からも視察に来られるなど、注目を集めている。

ここでは、平成25年度から30年度まで校長を務められた池之上義宏元校長にお話を聞き、平成30年度までの実践内容を紹介する。

川副中学校の概要

- 所在地：佐賀市川副町大字鹿江710番地
- 学校長：池之上義宏先生（平成30年度まで）
- 深川千幹先生（令和元年度から）
- 学級数：12
- 生徒数：289名（令和元年度）

「主体的な学び」の育成重点項目

「主体的な学び」を形成する能力・スキルとして「非認知能力」と「主体的な学習スキル」の二つを挙げたが、川副中学校としてそれをさらに具体的に示したのが次の8つの力である。

主体的な学びを高める「8つの力」

項目	指導・支援のための理解
計画性【学習スキル】	計画性をもって、また計画を立てて学習しているかどうか。
授業の受け方【学習スキル】	積極的に授業を受け、それを普段の学習に生かすようにしているかどうか。
覚え方・考え方【学習スキル】	学習活動の場面で、適切な覚え方や考え方をしているかどうか。
考えを広げ深める学び方【学習スキル】	自分で調べたり、先生に質問したり、友達と話し合ったりすることで、自分の考えや解き方を習得するようにしているかどうか。
学習意欲【非認知能力】	自分からやる気を出し、進んで学習しているかどうか。
がんばる力（自己効力感）【非認知能力】	学習や様々な活動に対して、自信をもって取り組んでいるかどうか。（できるかもしれない…という予期・確信）
やり抜く力（自己統制）【非認知能力】	自分の目的・目標や、やり抜くためのルーティーンを明確にしているか。学習に粘り強く取り組んでいるかどうか。
振り返る力（メタ認知）【非認知能力】	自分の記憶や思考の課程を見つめ、それを評価し、統制できているかどうか。

「主体的な学び」を支える資質能力の育成

令和3年度から全面実施となる新学習指導要領において、育成を目指す資質能力の一つとして「学びに向かう力、人間性等」が示され、生徒が主体的に学習に取り組んでいくことが重要とされている。以前からも「主体的な学び」は重要事項であったが、今回の改訂でさらにその重要性が高まったと言える。

「主体的な学び」を形成する主な能力・スキルは次

「主体的な学び」を形成する主な要因

- ①非認知能力
意欲、粘り強さ、やり抜く力、自己効力感、自己統制（自己調整）、メタ認知。
- ②主体的な学習スキル
目標、計画、学習行動の設定、結果の振り返りと改善点の考察。

の二つであると考えられる。

この二つの能力・スキルを関連付け、理解を深めながら取り組ませることが重要である。主体的な学習スキルだけを目的とすると、習慣化を強要することで無理が生じ、生徒も十分に納得しないことになる。非認知能力が学習面だけではなく人生に大きな影響を与える汎用的能力であることを生徒に理解させ、主体的に学習スキルを習得させる方策を考えるべきである。

日頃の指導の中で非認知能力育成の要素が含まれているものも多くあると思うが、科学的・論理的に説明しないまま、「精神論・根性主義的」な伝わり方がしないように気をつけたい。教師が非認知能力の知見を深め、科学的・論理的な指導を行うことが重要である。



1. 計画性
あなたは、目標や計画について、工夫したり改善したりしながら、自分にあった学習計画をつくることができましたか。
◇自分の「目標」をはっきり決める！
◇はじめは「だいたい」できる程度の計画をつくる！
◇計画には学習時間と休憩時間をバランスよく入れる！（学習時間を詰め込み過ぎないこと）
◇土日に試験のための学習時間をつくる！
◇効果的で実行可能な計画にするために必要に応じて計画を修正すべし！
Key Word：実行できる計画

2. 授業の受け方
あなたは、授業中真剣な態度で取り組み、学習内容を理解できるよう努力ができましたか。
◇分かると思って授業に臨んでいるか！
◇授業中に学習内容を理解すべし！（授業に集中）
◇「分からない」ことは質問すべし！（質問する勇氣）
◇自分の考えを表現したり、友達の意見や考え方を聞くことで理解を広げ深める！
◇毎日の学習ルーティン「予習→授業→復習」を習得する……→
Key Word：疑問をもつ

3. 覚え方・考え方
あなたは、学習の仕方やノートのみとめ方など理解が深まる工夫をしながら取り組みましたか。
◇授業ノートのとり方やまとめ方を工夫すべし！
◇理由を考えながら読み取り、解いたり、メモしたりする！
◇大切なところに印で「メガ」からまとめる！（オレンジペン・アンダーライン・チョートメモ・空き時間の活用）
◇まちがいの修正過程をまとめたノートをつくる！
◇復習は、その日→次の日→日曜日で行う！
◇「流暢性の実現」をまねく。「やったつもり」だけで、マーカーが白くは、理解度が高まらずテストで失敗する！
◇「自己確認テスト」で分かる・できるまで理解を確かめる！
Key Word：学習とノート

4. 考えを広げ深める学び方
あなたは、分からない問題は自分で調べたり、先生に質問したり、友達と話し合ったりすることで、自分の考えや解き方を習得するよう努力ができましたか。
◇分からない問題や苦手教科を意欲して学習すべし！
◇分からない問題は、
①自分で調べたり、②先生に質問したり、
③友達と話し合ったり教え合ったりすることで、「分からない」「分かる」「できる」にするべし！
◇分かるまで自分で調べたり、先生や友達に頼ったりすることで、自分の考えを広げ深める「対話的な学び」を習得しよう！
Key Word：広げる・深める

5. 学習意欲
あなたは、予習・復習やテスト学習などの家庭学習において、自分で「やる気スイッチ」を入れる工夫をしながら意欲的に取り組みましたか。
◇「やる気スイッチ」は自分で入れるもの！
◇モチベーションを高める工夫は自分で行うべし！
◇「わからない」「わかる」「いらいや強く思う！」「興味や関心があること」についてよく考え、探求すべし！
◇自分の将来のために前向きに学ぶ！
◇家庭学習で学力を高め学力を向上させる！
Key Word：やる気スイッチ

6. がんばる力（自己効力感）
あなたは、「やればできる」と信じて、学習内容が「わかる」「できる」まで努力ができましたか。
◇「やればできる」と思えよう→成長志向のマインドセット！
◇「やればできる」という信念・期待・希望をもちましよう！
◇不安な時は「やればできる」と声に出してやってみよう！
◇成功のコツは、身近な目標を順にクリアすること！
◇「分かる」「できる」まで取り組み、学ぶことの充実感や達成感を体験し、学びを習得しよう！
Key Word：やればできる

7. やり抜く力（自己統制）
あなたは、目標を達成するために、自分で決めた「やり抜くルーティン」を守り、粘り強く続けることができましたか。
◇学習行動を習慣化するために、自分で毎日の学習について「やり抜くルーティン」を決める！
◇学習時間や休憩をバランスよく入れる！（学習に集中するため）
◇学習意欲ももてる工夫をルーティンに加える！
◇毎日の自己評価で「やり抜く力」を磨いていこう！
◇学習もスポーツも「やり抜く力」の強さが重要だ！
Key Word：やり抜く

8. 振り返る力（メタ認知）
あなたは、自分が決めた目標や計画などについて、自分の努力の状況や成績の達成度を比較しながら振り返ることができましたか。
◇毎日の学習習慣を「やり抜くルーティン」自己評価で確かめる！
◇「テスト」学習マインドや「テスト」結果個人単独「ノート」で自分の努力の状況や成績の達成度を確かめる！
◇自分のことをよく見つめ、成果と課題を明確にする！
◇自己改善をめざした新たな「目標」や「計画」を立てて、自分の考えを深い成長志向のマインドセットを高めよう！
Key Word：振り返る

▲上記のスライド資料は、「8つの力」を生徒に示すために作成されたものである。

「主体的な学び」を育成する 三つの実践

教育活動全体で「主体的な学び」を育成するために、次の三つの実践が連結した基幹的なシステムを構築し、取り組みを行っている。

- 生徒理解の見える化
- テスト学習支援プログラム
- テスト結果個人累積システム

生徒理解の見える化

個に応じた指導を充実させるには、生徒理解の見える化が必要である。生徒一人ひとりの資質・能力や環境要因、適性や心理的側面を適切に把握することで、個々の状況に応じた適切な指導・援助が可能になる。

では、どのように生徒理解を行っていくべきか。現状では、教師による観察・面談、生徒の活動記録などでの判断、教師間の情報共有などを通して行われている場合が多いと予想されるが、それに加えて各種標準検査を導入することも有効であり、見えにくい内的要因(資質・能力、適性、悩み、思考など)を多面的・客観的に把握することで、生徒理解の精度が格段に向上すると期待できる。川副中学校では教師観察と標準検査の結果を重ね合わせ、「要支援生徒リスト」という資料を作成し、学習指導(相談)・進路指導(相談)・生徒指導(理解)に活用している。これにより、全職員による生徒理解と個別対応の共通認識ができ、学年内・学年間・担任と部活動顧問における連携が強化できるようになった。

▲資料2「ナビゲーションシート」

「マイプラン」は、最初は書けない生徒も多いが、教師が指導をすることで少しずつ書けるようになる。学習には目標を持つことが重要で、それは成績が何位になりたいかということではなく、どんな自分になりたいか。それを意識することができれば生徒も変わり、自然と書けるようになる。

学習・行動計画には、休憩時間も入れておくことが大事で、人間の集中力は2時間はもたない。ゲームが好きな生徒は、ゲームをまったくやらないという予定を立てると、逆に気になって勉強が手につかないこともある。普段1時間やっているなら、30分だけにするなど自分でルールを決めて取り組めばいい。また、予定通りにすべて終わらなくても、できなかったことは土曜日にするなど考えれば、自己調整もいつかできるようになる。

テスト学習支援プログラム

川副中学校が取り組んでいる本実践の中でも基幹的な取り組みになるのがこの「テスト学習支援プログラム」で、

- テスト対策における組織的・計画的な支援
- 取り組みとその結果に対する自己評価
- 資料(各種検査結果、テスト結果、自己評価)の蓄積と見える化
- テストと授業と家庭学習(学習・復習)の接続を意識した学習習慣の定着

を柱とした実践を行っており、学習状況を自己管理するセルフマネジメント力を向上させ、「主体的な学び」の育成を図っている。

テスト学習支援プログラム

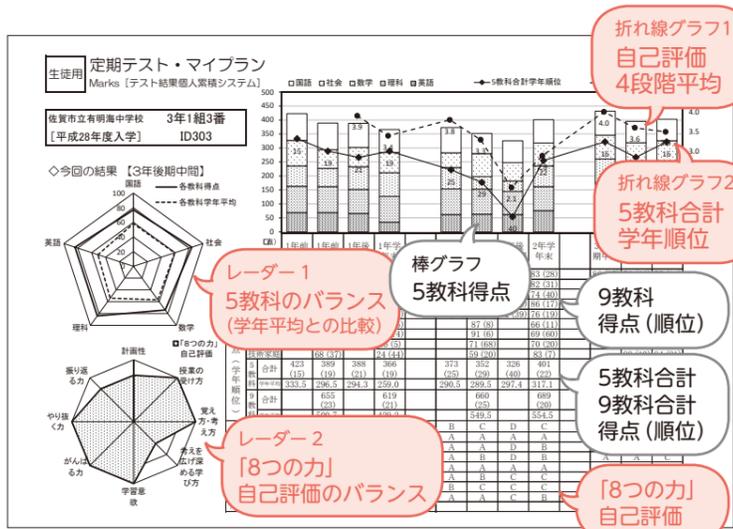
- 定期テスト(年4回)を全学年共通で実践。(3年間11回)
 P…目標設定・計画立案(資料1「マイプラン」)
 D…テスト学習(「マイプラン」を活用)
 C…テスト結果と「マイプラン」振り返り
 A…改善策の検討

定期テスト実施計画と指導の流れ

- ① テスト範囲と学習内容の提示(資料2「ナビゲーションシート」)
=テスト初日の20日前
- ② テストガイダンス(学習内容の振り返り)
=テスト初日の14日前 ※学年一斉または各学級や教科指導で行う。
- ③ 「マイプラン」作成 =テスト初日の12日前
- ④ 「マイプラン」自己評価 =テスト実施後

テスト結果個人累積システム

個人のテスト結果(得点・順位)と「8つの力」の自己評価を表やグラフに表示し、中〜中3の結果を累積して表示する資料を作成している。学んだ結果(テスト結果)と学ぶ力(主体的な学びを支える8つの力)の自己評価(累積して表示すること)で、自己理解・自己評価の深化・自己改善力の向上などに関する理解を深め、学習マネジメント力の育成や強化を図っている。教師や生徒が学習の成果や取り組みの経過などについて振り返り、今後の方策を考える資料として活用すると共に、保護者面談における成績資料や進路指導資料としても使用している。



▲テスト結果個人累積システム Marks 生徒用資料

まとめ

平成30年度の年度末に生徒に実施した「テスト学習マイプラン1年間の振り返り」を見ると、学習方法の改善や成績向上などにテスト学習マイプランが役立ったと答えた生徒は、1年で79%、2年で80%、3年で95%で、また、テスト結果個人累積システムが役立ったと答えた生徒は、1年で87%、2年で89%、3年で94%という結果であった。一連の取り組みが生徒たちにも肯定的に受け入れられていることがこの結果からもわかる。組織的に共通化を図りながら、全職員で継続的に取り組んだ成果も実感している。

生徒アンケート結果

- 「1年間の振り返り。自分の成長を感じたことについて」
(平成31年2月22日集計より抜粋)
- ナビゲーションシート…計画が立てやすく1日の学習量が想定できた。やることリストを活用して成績を向上できた。
 - マイプラン…学習意欲や学習時間が向上した。計画を調整しながら自分に合った計画を立てられるようになった。
 - 苦手な問題は積極的に先生や友達に質問することで成績が向上した。
 - よりよい学習方法を探そうと思えるようになった。
 - 3年間で8つの力が格段に成長した。(特にやり抜く力と振り返る力)
 - やり抜くルーティーンを意識して粘り強く頑張れるようになった。
 - 自己評価で自分を分析する力が成長した。自己改善する力が成長した。
 - 自分で計画を立て成績を向上させることができ何事にも自信をもって挑戦できるようになった。

▶資料1「マイプラン」(記入例)

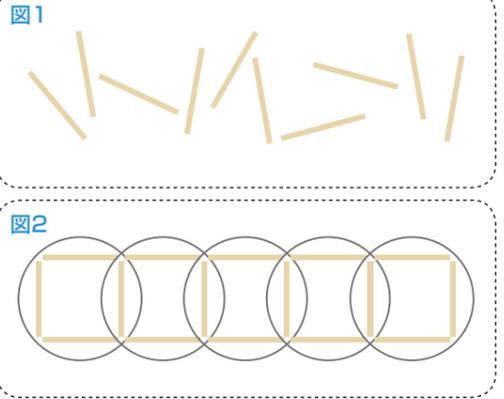
段階レベル		
教える	(予習)	見通しと疑問をもつこと →授業へ主体的に臨む姿勢
	教師からの説明	学修活動に必要な知識とモデルを示す
考えさせる	理解確認	教えられたことがわかっているか、生徒どうして説明し合って確認する 基本的な学習事項の確実な理解
	理解深化	学習した内容を活用したり発展させる課題に協働で取り組み、深い理解・定着を促す
	自己評価	「分かったこと」「まだよく分からないこと」「更に考えたいこと」をまとめる

教えて考えさせる授業

「教えて考えさせる」授業は、東京大学 大学院 教育学研究科 教授である市川伸一先生が提唱しているもので、先生の著書である『教えて考えさせる授業』の挑戦―学び意欲と深い理解を育む授業デザイン―を参考にし、これまで続けてきた本校の研究に新たに取り入れることとした。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を考えたとき、「教師が教える」場面と「生徒に考えさせる」場面をバランスよく配分するなど、「授業デザイン」をすることが重要である。

「教える」「考えさせる」のそれぞれの場面や段階において考慮すべきことは次の表の通りである。



- ランダムに棒が並んだ画像(図1)を1~2秒見せて、棒の数を数えさせる。
- ①を別の画像で繰り返す。
- 正方形が並んだ画像(図2)を1~2秒見せて、棒の数を数えさせる。
- ③を別の画像で繰り返す。

※①と③で棒の画像を見せることに関して、1~2秒だけ見せて、すぐに画像を隠すことが「キモ」となる。図1の画像は見ないと数えることが難しい。でも図2の画像は、1回見るだけで数えられる。棒が規則的に並んでいることで、「正方形の数さえ分かれば、画像を見なくても数えられる」という見通しをもたせることがねらいとしてある。見ながら数えるわけではない。

展開

授業の展開部分である学修活動については、まず個人で学習活動を行ってから、その上で学び合い活動を「学び合い」で行っている。

学び合いとは、単にグループで活動することではなく、個人が根拠を基に考えをもち、その考えを「伝え合う」ことである。お互いに自分の意見を伝えることで考えが整理され、人の考えを聞くことで自分の考えを広げることができたり、論理的に正しいかどうか批判的に考える力も身に付く。

なぜ学び合いが必要なのかをくり返し伝えていくことで、生徒たちの中でも学び合いに意識が向くようになってくる。生徒同士の話し合いなので、時には話が脱線したりすることもあるが、段々と自分たちでコントロールできるようになってくる。

本校では、学び合い活動をより効果的に行うために、生徒にアンケートを実施している。5つの観点で数値を出してグラフ化し、自分や自分のクラスに足りないことを客観的に分析し、学級目標と個人目標を立て、どこが良く、どこに課題があるかをしっかりと踏まえたうえで活動させている。

- (学び合いアンケートの5つの観点は、)
- 議論の調整・統合(話し合い)
 - 批判的思考
 - 主体的傾聴(話しを聞くこと)
 - 主体的主張(意見を言うこと)
 - 論理的主張
- 学び合いでは、課題を適切に設定し、教師が説明する時間を最小限にすることが大事である。生徒の考えを引き出すような発問の工夫を工夫しながら、生徒が思考し、アウトプットする機会を多く設けることが能動的な学習を促し、主体的な学びの獲得につながる。

教えて考えさせる授業編成例

授業時間	15分
授業内容	数と式
学習目標	数と式
評価方法	授業観察
評価項目	理解確認
評価結果	
自己評価	

まず「予習」では、見通しと疑問をもつことで授業へ主体的に臨む姿勢を促す。

次に、「教師からの説明」では学修活動に必要な知識と説明のモデルを提示する。ここが「見通しを持たせる活動」と対応する。教師主導で説明するにしても、生徒たちと対話するなどして、生徒の理解状態を確認しながら教えることが大事である。

「考えさせる」は3つのステップに分かれる。

第1ステップの「理解確認」では、「教科書や教師の説明したことが理解できているか」を確認するため、生徒同士の説明活動や教え合い活動を行う。

第2ステップの「理解深化」では、多くの生徒が誤解しているような問題や、学習した内容を活用したり発展させる課題に協働で取り組み、深い理解や定着を促す。

第3ステップの「自己評価」では、振り返りを重視する。「授業でわかったこと」「まだよくわからないこと」を記述させてメタ認知を促すとともに、「さらに考えたいこと」についても書かせるようにして、家庭学習や次の授業へつなげていく。

教師が授業デザインをしやすくするために本校では「教えて考えさせる授業構想シート」も作成している。

まとめ

振り返りは、「振り返りシート」を活用して実施している。授業の最後に、何が理解できて、何が理解できなかったかを振り返り、次の学びに向けてどうすればよいかを記入させる。

- 自分自身で取り組んだことを整理することで、学んだこと、取り組んだことを再構築でき、学習が定着する。
- 客観的な自己評価をすることで、何がわかり、何がわからなかったのか、何ができるようになったかがメタ認知でき、これから取り組むべき具体的な目標が明確になる。
- 学習意欲の喚起。「次に何を考えたいか」を考えさせることで、生徒の学習意欲につながる。

振り返りを繰り返すことで、自分で目標を設定し、自分から課題に向かって取り組む姿勢ができてくる。また、前時の振り返りと本時の見通しをつなげることが重要で、次の授業の最初に、前の授業の「振り返りシート」を配っている。そのうえで、今日の授業はここに気を付けなければいけないと、これを重点的に取り組もうという今日の見通しが立てられる。

教師によるチェックは、最初の頃は毎授業集めてコメントを書いて返却していたが、長く続けていく中で、教師の過度の負担にならないようやり方に変わってきた。1枚書き終わったらチェックする、毎月月末にチェックする、など様々である。

まとめ

最後に、本校の研究の成果と今後の課題についてまとめておく。

成果としては、「学習意欲の向上」と「振り返りシート、家庭学習ノートの質の向上」の二つが挙げられる。「学習意欲の向上」については、生徒に実施したアンケートにおいて、特に「分からないことを質問などによって解決することができた」「授業に意欲的に取り組むことができた」が、1年間でそれぞれ15.8ポイント、5.9ポイント向上した。「振り返りシート」でも具体的な記述ができるようになり、次の学びにつなげようとする姿勢も少しずつ高まってきた。

今後の課題については、「家庭学習の習慣化」と「考えを深める活動の一層の工夫」で、改善に向けて取り組んでいきたい。

家庭学習を充実させるために、振り返りの活動で、「分かったこと」「分からなかったこと」だけではなく、「次に何を考えたいか」も考えさせることで、家庭学習、そして次の授業へと連動するように工夫していく必要がある。

また、考えを深める活動により一層取り組んでいくためには、振り返りの時間を十分に確保し、生徒にその大切さを伝えるとともに、生徒が考えを深められるような課題設定を工夫し、深い学びの実現に向けた授業改善を行っていくことが大事である。

最新 入試動向

近年の入試の変化と 最新入試動向

新しい学習指導要領や大学入試改革等の影響を受け、近年の高校入試では新しい変化が見られます。思考力・判断力・表現力を重視した問題が増えたり、英語のスピーキングテスト導入の動きがあったりなど、都道府県ごとに違いはありますが、そのような動向は少しずつ広がっているように感じられます。

ここでは、そういった新しい入試の動向と、5教科の全国的な入試傾向をご紹介します。

実践校に
お聞きしました!

参考書籍のご紹介



佐賀県
佐賀市立
川副
中学校

自律的な
学習意欲の心理学
櫻井茂男 著
誠信書房



「学力」の経済学
中室牧子 著
ディスカヴァー・
トゥエンティワン



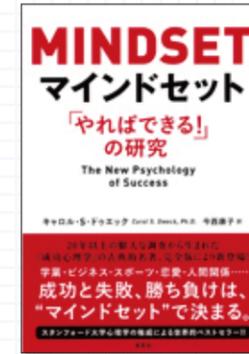
脳が認める勉強法
ベネディクト・キャリー 著
花塚恵 訳
ダイヤモンド社



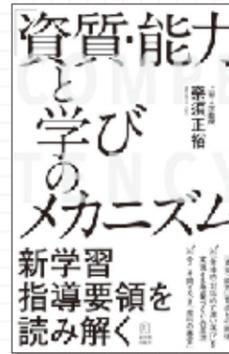
やり抜く力
アンジェラ・ダックワース 著
神崎朗子 訳
ダイヤモンド社



マインドセット
「やればできる!」の研究
キャロル・S・ドゥエック 著
今西康子 訳 草思社



「資質・能力」と
学びのメカニズム
奈須正裕 著
東洋館出版社



カリキュラム・
マネジメントに挑む
長田徹 著
図書文化



東京都
立川市立
立川第二
中学校

教えて考えさせる授業
中学校
市川伸一 編集
図書文化



授業からの学校改革
市川伸一 編著
図書文化



学ぶ意欲と
スキルを育てる
市川伸一 著
小学館



傾向1 資料を読み取って記述させる問題がさらに増加!

全国的に、資料読み取り問題が増加し、特に複数の資料から読み取る問題や、複数単元の内容をふくむ資料を使った問題が多く見られた。反対に、用語で答えさせる問題が減少するなど、単純な知識を問う問題は減少傾向にある。また、文章記述問題を出題する都道府県は昨年と同じ46都道府県で、うち14府県では記述問題数が増えている。70～80字程度の記述を求める問題を出題する都道府県が複数あった。新学習指導要領で、思考力・判断力・表現力の育成が掲げられていることから、文章記述問題を重視する傾向は今後も続くと考えられる。

平成31年春の入試で前年よりも文章記述問題数が増加した府県

- 青森県 秋田県 茨城県 新潟県
- 山梨県 大阪府 奈良県 和歌山県
- 島根県 岡山県 愛媛県 福岡県
- 長崎県 大分県

傾向2 資料をもとに、自分の考えや根拠、複数の視点から見た利点や課題などを考えて記述させる問題が出題!

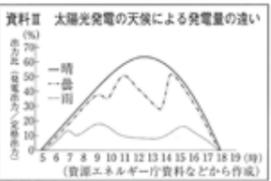
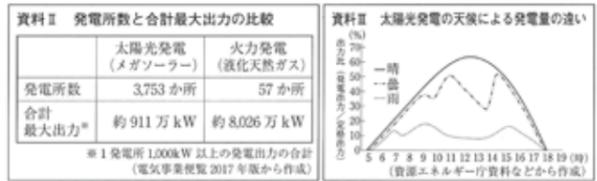
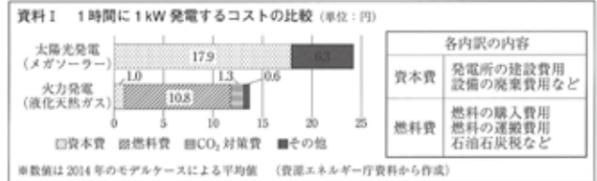
近年、教科書にない目新しい資料を複数使い、自分の考えや根拠などを考えて記述させる問題が増加している。例えば、岩手県では、太陽光発電を広く導入することの利点と課題を複数の資料から読み取って論述させる問題、佐賀県では、コンビニエンスストアの24時間営業について利

用者と経営者の立場から論述する問題が出題された。資料を正確に把握し、そこから得られた情報をもとに自分の考えを表現する力だけでなく、様々な視点から物事をとらえ、複数の立場に立って考える力が求められている。

問題例 1

(岩手 大問9)

(3) 下線部③について、次の資料Ⅰ、資料Ⅱは、火力発電と太陽光発電のコストや出力などを比較したものです。また、資料Ⅲは、太陽光発電の天候による発電量の違いについて示したものです。今後、広く日本で太陽光発電を導入する場合、どのような利点と課題が考えられますか。利点と課題の両方について、それぞれ一つの資料を選んで示し、その資料に基づいて簡単に書きなさい。ただし、利点と課題で同じ資料を用いないこととします。(3点×2)



出題テーマは、生活に関わる身近な内容から地球規模の課題まで、多岐にわたる。資料をもとに論述させる問題が近年増加。

解答例 (利点)
資料Ⅰ 燃料費やCO₂対策費がかかっていないことから、環境への負荷が軽いと考えられる。
資料Ⅱ 発電所数が多いことから、火力発電所に比べると、発電所が建設しやすいと考えられる。
資料Ⅲ 天候にかかわらず、日中は一定程度の電力が得られると考えられる。
(課題)
資料Ⅰ 発電費用の総額が高額になっているため、火力よりも電気料金が高額になると考えられる。
資料Ⅱ 火力と比べると1発電所あたりの発電出力が小さいので、多くの電力を得るためには発電所を多く建設する必要があると考えられる。
資料Ⅲ 天候によっては、発電量が十分に得られないため、安定した電力供給が難しいと考えられる。

問題例 2

(佐賀 大問5)

5 下線部⑤に関連して、はるとさんのクラスでは「24時間営業の見直し」をテーマに議論することになった。あなたが考えるコンビニエンスストアの24時間営業、利用者の視点に立った利点と経営者の視点に立った問題点を、解答欄の形式に合わせてそれぞれ書きなさい。

解答例
(利用者の視点に立つと) いつでも商品を購入できる/いつでも公共料金の支払いができる など (という利点があると考えられる。)
(経営者の視点に立つと) 夜間の労働力の確保が難しい/光熱費や人件費がかさむ など (という問題点があると考えられる。)

時事問題について複数の立場から考え、記述させる問題が出題。

傾向1 思考力・判断力・表現力を問う問題が頻出!

「思考力・判断力・表現力を問う問題」は、ほとんどの都道府県で出題された。文章の内容を読み取った上で、理由や根拠を明らかにして書く問題や、文章とグラフなど、複数の資料を読み取って自分の意見を書く課題作文などを出題する傾向が見られた。新学習指導要領でも、根拠を明確にすることや、文章と図表を結び付けて考えることが重視されているため、今後このような出題は続くものと思われる。

問題例

(熊本 大問1)

理由や根拠を明らかにして書く問題!
複数の資料を読み取って自分の意見を書く課題作文!

発行年が新しい図書の記事!

	著者名	出題県数	出題された作品名
説	ながたかひろ	7	知の体力
説	いながむらひひろ	4	雑草はなぜそこに生えているのか(3県) 雑草が教えてくれた日本文化史(1県)
文	ぬかがみお	4	風に恋う(3県) ジョックロックに笑え(1県)
説	むらひひろし	3	読書の価値
文	にしがきようこ	3	ぼくたちのP <small>パラダイス</small>
説	はせがわまりこ	2	世界は美しく不思議に満ちている
説	やまびわいし	2	ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」
文	いぬい	2	願いながら、祈りながら

小中高生が主人公の小説!

傾向2 平成31年春入試で多く出題された著者・作品

左は現代文の頻出著者ランキングである。文学的文章では、小中高生が主人公の小説が多い。また、今年も時代設定が古い文章の出題が目立ち、約10冊の文章が出る傾向があるので、チェックしておきたい。

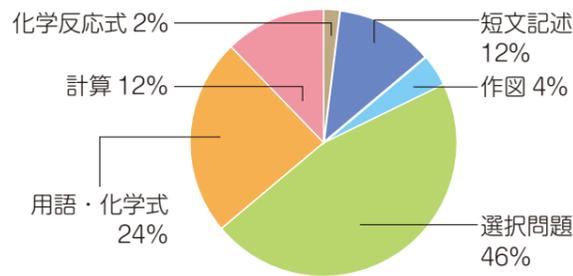
傾向1 問題文・解答の長文化傾向が続く

全国的には各都道府県の解答形式の出題バランス自体には近年大きな変更は見られない。今年は右図のような結果となっている。

短文記述解答での文章の長さは近年明らかに長文化傾向にある。定番知識の記述は減ってきており、考察内容の表現が求められる。計算問題でも、式の過程まで記述させる問題がみられる。

読みとる設問文自体も長文化しており、文章を読み取り、表現する力は今後もますます求められると考えられる。

●平成31年春入試 解答形式別出題数



傾向2 「仮説」を検証する実験の出題

平成30年春の全国学力調査問題で見られたような「仮説に基づき、教科書にはない実験の計画を立案する問題」(光合成の対照実験の条件制御など)や、「実験が上手くいかなかった原因について仮説を立てる問題」(金属の加熱実験での質量変化の検証)など、従来の設問とは異なる

切り口の問題が、今年も複数の都道府県で出題がみられた。「教科書で学習した知識を、身の回りの事象に活用して考えさせる問題」も、扱いに軽重はあるものの多くの都道府県で出題が定着してきており、知識を活用して思考する力が求められている。

問題例

(正口 大問9)

瞬間冷却パックの材料として、市販されているクエン酸と重そうを用意し、次の〈仮説1〉を検証するために、下の実験を行った。

〈仮説1〉 クエン酸と重そうの質量の合計が大きいほど、温度がより低くなる。

- [実験] ①クエン酸10gと重そう10gをよく混ぜ、発泡ポリスチレンの容器に入れた。
 ② 図1のように、デジタル温度計を入れ、水100cm³を加え、ガラス棒でかき混ぜながら、10秒ごとに温度を記録した。温度が一定になっても、開始から6分間は測定を続けた。
 ③ ①で混ぜる材料の質量を「クエン酸20gと重そう20g」「クエン酸30gと重そう30g」にかえて、①、②の操作を行った。
 ④ 結果と考察を図2のようにまとめた。

次にAさんはより冷える条件を見つけようと考え、次の〈仮説2〉をたてた。

〈仮説2〉 クエン酸と重そうの質量の比によって、最低温度が変わる。

Aさんは、〈仮説2〉を検証するために、[実験]の①で混ぜる材料の質量を表1のようにかえ、[実験]の①、②の操作を行う計画をたてた。

(略)

- (4) Bさんは、Aさんがたてた表1の計画に対して疑問をもち、AさんとT先生と、次のような会話をした。

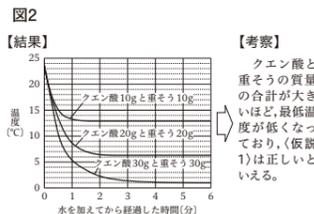
Bさん: Aさんの計画では、各回で、クエン酸と重そうの質量の あ ため、クエン酸と重そうの質量の比の違いが、最低温度にどのように影響するかをしらべることはできないと思います。

T先生: そうだね。変化させる条件を1つだけにすることが必要ですね。

Bさん: Aさん、実験の考察を振り返って、一緒に計画をたて直してみようよ。

Aさん: はい。仮説2を正しく検証できるように、混ぜる材料の質量を設定し直してみるよ。

Aさんは、BさんとT先生との会話にもとづいて、〈仮説2〉を正しく検証できるように、[実験]の①で混ぜる材料の質量を表2のように設定し直した。図2の【考察】をふまえ、あに適切な語句を書きなさい。また、a~dにあてはまる数値をそれぞれ求めなさい。



	クエン酸と重そうの質量の比	クエン酸の質量	重そうの質量
1回目	1:2	30g	60g
2回目	1:1	30g	30g
3回目	2:1	30g	15g

	クエン酸と重そうの質量の比	クエン酸の質量	重そうの質量
1回目	1:2	<u>a</u> g	<u>b</u> g
2回目	1:1	30g	30g
3回目	2:1	<u>c</u> g	<u>d</u> g

解答 あ: 合計が異なる a 20 b 40 c 40 d 20

傾向1 「資料の活用」領域の問題は、出題形式が多様化!

「資料の活用」や「標本調査」の問題は、平成31年春入試でも9割以上の都道府県で出題され、頻出領域となっている。資料から代表値を求める基本問題だけでなく、資料から読み取ったことをもとに理由を説明する問題や、複数の資料から必要な情報を読み取る問題などもよく出題される。さらに、ここ数年では記号選択の問題でも、各選択肢が長文

で読解力が必要な問題や、問題文の説明から正しい資料を選ぶ問題なども増えつつあり、出題形式も多様化している。

新学習指導要領で、「資料の活用」領域は「データの活用」に名称を改め、取り扱う内容も増加するため、今後も同様の出題傾向が続くとともに、さらに問題が多様化していくことが予想される。

傾向2 理由や考え方を説明する記述問題が増加!

証明や、計算の過程を書く記述問題に加えて、近年は理由や考え方を説明させる問題が増加傾向にある。特に、計算結果を根拠として説明する問題は、確率の内容で増えつつある。また、求める方法や手順を説明する問題、誤りである理由を説明する問題など新傾向の記述問題も目立ってきている。これらは、問題解決の過程の振り返りや言語活動の充実など、新学習指導要領でも重視される内容を反映したものと考えられる。

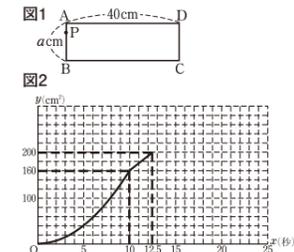
平成31年春入試で出題された新傾向の記述問題

- 計算結果を根拠として説明する問題
…岩手、千葉、鳥取、福岡、宮崎
- 求める方法や手順を説明する問題
…長野、福井、島根、福岡
- 誤りである理由を説明する問題
…福井

問題例

(福井B 大問5)
誤りである理由を説明する問題

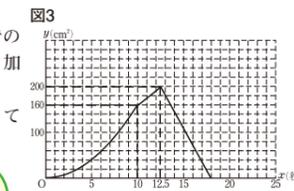
- 5 右の図1のように、 $AB=acm$ 、 $AD=40cm$ の長方形ABCDがある。2点P、Qは、同時に頂点Aを出発し、点Pは、長方形の辺上を反時計回りに、点Qは、長方形の辺上を時計回りに、反時計回りか、時計回りかのいずれかで、それぞれ一定の速さで動き続け、2点P、Qが、再び同じ位置になったら止まる。出発してから12.5秒後に、点Pは頂点Bに、点Qは頂点Cに達した。出発してから x 秒後の $\triangle APQ$ の面積を ycm^2 とし、 $0 \leq x \leq 12.5$ のときのグラフをかいたところ、右の図2のようになった。 $0 \leq x \leq 10$ のときは頂点が原点の放物線であり、 $10 \leq x \leq 12.5$ のときは直線である。このとき、次の問いに答えよ。ただし、 $\triangle APQ$ ができないときは $y=0$ とする。



- (1) $0 \leq x \leq 10$ のときの放物線の式を求めよ。
 (2) 下の【説明文】は、点Qが頂点Aを出発して、時計回りか、反時計回りかのどちらに動いたかを説明したものである。【説明文】の中の に言葉を書き入れ、【説明文】を完成させよ。

【説明文】 図2のグラフを見ると、 $0 \leq x \leq 10$ のときは上に開いた放物線であるので、点P、Qが出発直後のある一定の時間は、 y は0から増加している。
 点Qが時計回りに動いた場合、点P、Qが出発直後のある一定の時間は、線分APを底辺とすると、 を高さとする $\triangle APQ$ ができ、底辺の長さと同じ高さとともに0から増加していくので、 y は0から 。
 点Qが反時計回りに動いた場合、点P、Qが出発直後のある一定の時間は、3点A、P、Qが にあるので $\triangle APQ$ ができず、 y は0から 。
 よって、点Qは、点Aを出発して、 回りに動いた。

- (3) 点Qの動く速さと a の値を求めよ。
 (4) 図3は、図2に、12.5秒後から2点P、Qが止まるまでのグラフをかき加えたものである。しかし、そのかき加えたグラフは誤りである。誤りである理由の1つを言葉や数、式などを使って説明せよ。



誤りの理由や求める方法などを相手に伝えるように、論理的に説明する問題が増加傾向。

- 解答
 (1) $y = -\frac{8}{3}x^2$
 (2) (上から順に) 線分AQ、増加していく、同じ直線上、変化しない、時計
 (3) 毎秒4cm $a=10$
 (4) かき加えたグラフは、 $y=0$ のとき、 $x=18$ であることが誤りである。なぜなら、P、Qがそれぞれ動いた長さの合計は、出発して12.5秒後までに60cm、出発して止まるまでに100cmだから、面積が再び0cm²となるのは、 $12.5 \times \frac{100}{60} = \frac{125}{6}$ 秒後であり、正しいグラフは、 $y=0$ のとき、 $x = \frac{125}{6}$ であるから。

連載企画

教材活用 講座

第5回

進学教材の活用で 学習習慣の定着を

この連載では、全国各地の中学校でお聞きした、補助教材を活用しながら、生徒のみなさんの学力向上に向けて工夫されている取り組みをご紹介します。

第5回目となる今回は、進学教材の「新研究」と「中学セミナー」を使った、学習の習慣作りの実践をご紹介します。

事例1

朝学習と「新研究」を使った自学自習で、 学習の習慣作りを

～愛知県での「基礎のチェック30」+「新研究」の活用事例～

事例2

「中学セミナー」で学習のしかたを学び、 自分で学習する習慣を身に付ける

～福岡県での「中学セミナー」の活用事例～

傾向
1

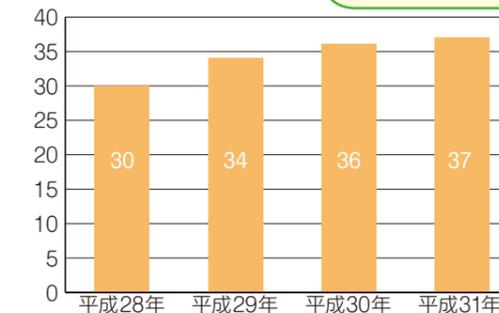
資料を使った読解問題が頻出！

近年の英語入試では、図表やチラシ、ホームページなどの資料を使った読解問題が多く都道府県で出題されている。平成31年春実施の入試では、37都道府県で出題され、平成28年から増加を続けている。

新学習指導要領の「読むこと」における活動では「日常的话题について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動」が掲げられており、このような資料を使った英文を読み解く力が重視されている。

●資料を使った読解問題の出題都道府県数推移

平成28→31年で7都道府県増。
今後も増えていくと予想される。



傾向
2

全国学力・学習状況調査の英語予備調査*を意識した問題が出題！

平成31年春の入試では、7都道府県で、平成30年5月に実施された英語予備調査を意識した問題が出題された。これは、特に「活用」の問題において、英語予備調査での出題が、国による「活用」問題の指針として捉えられたと見ることもできよう。中でも特徴的だったのは、「聞くこと」の「スピーチを聞き、話の展開に合うようにスピーチ中に示す絵を並べ替える問題」や、「読むこと」の「ホームペー

ジを読み、参加者が事前に準備すべきことが書かれた部分を選ぶ問題」などである。英語予備調査の問題形式の多くは、平成31年4月実施の全国学力・学習状況調査でも出題されており、来年度の入試も、このような「活用」を意識した問題の出題が増えると予想される。

*平成31年4月実施の全国学力・学習状況調査を円滑に実施するために、全国の公立中学校から抽出された136校の中3生を対象に行われた。問題は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の技能別で構成。各技能は「主として「知識」に関する問題」「主として「活用」に関する問題」の枠組みで出題された。

▼英語予備調査問題

問題文：ある美術館、博物館をめぐりながら、おしゃべりしています。写真は、博物館に展示してある、4つの異なる種類の動物の絵です。正しい順番になるように、1つずつ絵を選びなさい。

「聞くこと」…スピーチを聞き、話の展開に合うようにスピーチ中に示す絵を並べ替える問題。

問題文：英語カフェのホームページです。必要な情報を確認してください。

「読むこと」…ホームページを読み、参加者が事前に準備すべきことが書かれた部分を選ぶ問題。

出典：国立教育政策研究所ホームページ
http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/kannren_chousa/eigo_yobichousa.html

▼滋賀 大問1 リスニング ※イラストは編集部にて作成。

《その3》 優子さんはカナダから日本に留学中のジョンさんと一緒に美術館に来ています。次の放送は、優子さんとジョンさんが館内を回る順番について話している内容です。2人が回ろうとする順となるように、AからDまでを並べかえたとき、正しいものを、AからCまでの中から1つ選びなさい。

ア A → C → B → D イ A → B → D → C ウ B → C → A → D
エ B → A → D → C オ C → A → D → B カ C → B → A → D

▼宮崎 大問4 ※イラストは編集部にて作成。

4 久美 (Kumi) が、留学生のリサ (Lisa) と話をしています。【案内書】(flyer) と【二人の対話】をもとに、下の1～4の問いに答えなさい。

【案内書】

Free Summer Lessons for Students

■Place: Hinata Library
■Date : Tuesday, July 24 ~ Sunday, August 19 [We are closed on Mondays.]
■Lessons and Time:

Lessons	Time	
Flower Arrangement	10:00 - 11:50	13:30 - 15:20
Computer	10:00 - 12:00	13:20 - 15:20
English Conversation	9:50 - 12:00	13:20 - 15:30
Shogi	9:50 - 11:45	(13:30 - 15:25)

■Bus : 15 minutes between West Station and Hinata Library
Leaves West Station at 13:00 / Leaves Hinata Library at 12:10 / 15:40

■Information:
・Shogi lessons in the afternoon will be held only on weekends.
・If you want to take a lesson, please call 0120-XXX-XXX.

1 次の質問に答えるとき、【案内書】A～Dの、どの内容をもとに答えばよいですか。最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。
(質問) Are there any holidays at Hinata Library ?

朝学習と「新研究」を使った自学自習で、学習の習慣作りを

愛知県内の中学校では、3年生の入試対策学習の習慣作りのために、入試対策用の総まとめ教材と、総まとめ教材に連動したドリルが活用されている。朝学習でドリルをさせながら、それと連動した総まとめ教材を家庭での自主勉強としてさせることで、生徒に無理なく入試対策学習の習慣を定着させることができる。

県内の複数の学校で行われている、ドリル学習を軸にした学習の習慣作りの取り組みについて紹介したい。

使用されている教材

(教材名は弊社発行教材の場合)

朝学習用の教材としては「基礎のチェック／総復習30(25)」「自主勉強用教材」として「新研究」と「定着ノート(新研究ノート)」が使われている。

「基礎のチェック」は、入試対策用教材である「新研究」の付属ドリルで、「新研究」本誌の1単元目がドリルの1回目に対応し、本誌と同一の問題がドリルの問題の一部に含まれていることで、「新研究」本誌学習の確認ができる教材である。朝学習開始時期が早い場合は30回ものを、開始時期が遅い場合は25回ものが採用される。朝学習用教材はクラス全員採用で、自主勉強用教材は、生徒ごとの希望採用になる場合もある。

年間の学習の流れ

- ① 2年生の1月から2月ごろ…入試対策用教材の選定を行い、その年に使用する教材を決定する。
- ② 2年生の2月ごろ…保護者説明会にて、選定教材と活用方法の紹介を行う。
- ③ 2年生の2月後半～3年生4月ごろ…生徒に年間の学習計画表を配布し、朝のドリル学習と自主勉強を開始する。
- ④ 夏休み…それまで進んだところの振り返り学習や残った単元の一部を宿題として提示する。
- ⑤ 3年生の2学期末…朝のドリル学習を終える。

1日の流れ

- ① 年間の学習計画表を参考に、家庭学習として、翌日の朝のドリル学習で出題される範囲の自主勉強をする。「新研究」を購入した生徒は、解答用ノート(「定着ノート」または「新研究ノート」)を使って学習する。
- ② 始業前の10分間の朝学習にて、「基礎のチェック」の問題を解き、自己採点で答え合わせをして、担任の先生に提出する。「新研究」の学習をした生徒は解答用ノートもあわせて提出する。
- ③ 当日中か翌日の朝までに、担任の先生から解答用ノートが返却される。



取り組みの流れ(一例)

2年生の2月上旬

保護者説明会を実施
(朝のドリル学習の説明、
自主勉強用教材の紹介)



2年生の2月下旬ごろ

生徒に年間の学習計画表を配布
→使用開始

学年	月	日	科目	単元	回数
2	2	1	国語	1	1
2	2	1	数学	1	1
2	2	1	理科	1	1
2	2	1	社会	1	1
2	2	1	英語	1	1
2	2	1	音楽	1	1
2	2	1	美術	1	1
2	2	1	体育	1	1
2	2	1	保健	1	1
2	2	1	家庭科	1	1
2	2	1	総合	1	1
2	2	1	外国語	1	1
2	2	1	その他	1	1
2	2	1	合計		

前日までに、家庭で「新研究」
などを使って事前学習



朝学習の時間に
ドリル学習



担任の先生にドリルとノートを提出
→先生が検印後に返却



2年生の3月～3年生の12月

「基礎のチェック／総復習25」を使った朝のドリル学習の実施

採用校の先生の声

年間計画

- 朝のドリル学習と「新研究」学習は2年生2月から、3年生1学期中に15回までをやり、夏休みに16～20回までの1回目と、1～15回までの2回目をやるように言う。(3年学年主任・国語)
- 2年2月初めから実施し、3年12月には終わる。25回を採用している。(3年進路指導担当・社会)
- 2年生2月に「新研究」の販売と保護者会を行い、2月20日ごろからの学習計画表を配布。1単元目はお試して、学校でやらせる。3月末までに3単元、夏休みまでに20単元、3学期中に30単元まで終わるよう進めさせる。テスト期間は「新研究」学習を減らす。(3年学年主任・社会)
- 3年生4月から朝学習開始、7月末までに8回目までを終了。25回採用。(3年学年主任・数学)

学習の流れ

- 朝学習は10分間。問題と自己採点・回収・ノート回収もその時間内に行く。曜日で教科を割り振って実施。(朝学習実施校全て)
- 「新研究」購入者には、前日に「新研究」学習をやることと効果的と伝える。それ以外の生徒にも他教材で同じ単元を振り返るよう伝える。(3年進路指導担当・社会)

「新研究」学習の管理・点検

- 「新研究」の解答用ノートは生徒が持つてくれれば点検する。購入を勧めるからには提出してもらいたい点検したい。(3年進路指導担当・社会)
- ノートを毎日提出させて、担任が点検。その日中か翌日朝までに返却する。(3年学年主任・社会)
- 10単元ごとに最終締め切り日を伝え、間に合わない生徒には、「居残り学習」をさせる。(3年学年主任・社会)
- 5教科の全単元表を提出するノートに挟ませ、担任はノートと単元表の両方に判を押す。全単元表を見れば、5教科の提出状況が一覧できる。(3年学年主任・社会)

成績・評価などの連動

- 全員が「新研究」を採用しても、「新研究」学習は進路対策が目的なので、成績には入れない。受験のための勉強は成績と切り分ける。(調査校全て)
- 朝学習用のドリルは、同一問題を定期テストに入れていく。(3年学年主任・国語)(3年学年主任・数学)
- 朝学習ドリルは定期テストの範囲に入れる。地理は特に3年生ではやらないが、ドリルで振り返り、さらに定期テストにも出るとなると、生徒も勉強してくれ、学習効果が高い。(3年進路指導担当・社会)

「中学セミナー」で学習のしかたを学び 自分で学習する習慣を身に付ける

福岡県北部の中学校では、近年、三年生の朝学習用教材として中学セミナーを採用する学校が増えている。先生方のねらいは、学習のしかたを学び自分で学習する習慣を身に付けさせること。

ある学校では、これまで朝学習で先生の自作プリントを実施していたが、今年度は先述のようなねらいに加え、先生の「働き方改革」の一助として、「中学セミナー」を採用。一日一シートの学習をスタートさせた。その方法について紹介する。

教材の形態

中学セミナーは、「問題シート」とそれに対応した「解説シート」「解答シート」の3シートがセットになっており、4セットで一つの講座になっているプリント教材である。基本はプリントだが、「解説シート」だけ綴じて「プリント集」として使用「や」「問題シート」を綴じて長期休暇用の宿題として使用」といった様々なご要望にお応えできる教材である。

この学校では、「問題シート」「解説シート」「解答シート」をそれぞれ一講座ごとに綴じて「ヒモでくくり、机の横に掛けて保管させている。そのため「家に忘れた」というようなことは発生せず、全員が必ず取り組める状況を作っている。

学校での学習の流れ

朝学習の目安は15分〜20分。配布された計画表に

したがって、各自のペースで取り組む。朝だけでは答え合わせまで終わらないので、昼休みなども利用して取り組んでいる。基本的には月曜から木曜まで同じ教材をシートずつで計画しているが、金曜日を予備日としていて、できていない分に取り組めるようにしている。

次の週の総合的な学習の時間などを利用し、前週に学習した教材の確認テストを実施。テストの結果はグラフにして返却することで、「中学セミナー」に取り組むモチベーションアップに努めている。

家での学習

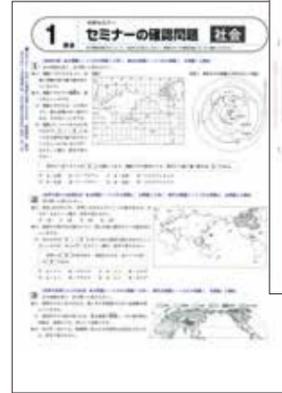
三年生になると、宿題として「自主勉ノート」を毎日1ページ埋めて提出させている。最初、多くの生徒が「何をどう学習して書けばよいかわからない」状態であるが、「中学セミナー」の終わった講座を持って帰らせると、解説シートの内容をまめ直ししたり、できなかった問題をもう一度解いたりすればよいことに気づき、「何をどうやって学習するか」「や」「学習する習慣」が身に付くようになる。



▲自主勉ノートの例

中学セミナー

▼「セミナーの確認問題」各講座(4シート)の内容に対応した確認用テスト



▼解答シート



▲問題シート

◀解説シート

※この学校では講座ごとに綴じたものを採用し、ヒモでくくって机の横に掛けて保管しています。



綴じても40ページの薄い冊子なので、ほとんど仕上げたとき、達成感を得やすいです!



採用校の先生の声

- 冊子だと家に忘れたら終わりですが、プリントだと毎回配れるので、全員が取り組めます。
- 一年生で学習した内容からしっかりと取り組めるのがいいです。
- 自主勉ノートに「解説シート」の内容をまめ直ししてくる生徒が多いです。また、「解説シート」に(1)などと書いてあるところが「問題シート」で出題されていることに気付いてくるので、その部分を何回も書いて覚えている生徒もいます。
- 「問題シート」は答え合わせと採点までして提出させます。七割取れていない場合は、自作の補充プリントで復習させています。
- 国語の週、数学の週というように週ごとに教材を決め、月曜から木曜までの朝学習で同じ教材にシートずつ取り組んでいます。金曜日は確認テストの日で、テストも朝学習の20分で実施しています。
- 確認テストは一教科25分程度でできるので、一時間の授業の中で二教科ずつ実施します。
- 朝学習をいい加減にやっていた生徒が、第一講座のテストで思ったように点数が取れず、「このままではまずい」と真剣に取り組むようになりました。

みなさんの学力を向上させるために、今年度から中学セミナーという教材に取り組みます。この中学セミナーはひとつの講座が930円もします。卒業までに7講座取り組むので、総額6,510円必要です。家族が毎日頑張ってくれ、支払ってください。お金の無駄状態にならないように活用し、成績が上がれば、家族もきっと喜ぶと思います。

◀学年最初に配布した進路通信。「中学セミナー」学習の動機づけを行っている。



令和2年度用 改訂新版

平成31年春の入試で
改訂しました!

新研究

総まとめ教材の決定版

- 基礎・基本の徹底練習から最新入試対策まで、この1冊で取り組めます!
- テストに使える教師用WEBコンテンツをご提供!
(問題図版[社会・数学・理科]・古典テキスト[国語]・長文テキスト[英語])



中学セミナー

シート教材で入試対策の基礎固め

- 毎日の学習習慣を育成しながら、基礎・基本の定着と最新入試対策ができるシート教材です。
- 学習計画に合わせて納品形態が選べます。

全11講座と
特別講座2回、
活用問題講座



※表紙デザインは制作中のものですので、変更になる場合があります。

次号
予告

@Sing vol.16 { 2019年12月頃
発行予定 }

特集 新学習指導要領実施
に向けて

連載 教材活用講座

次号も、すぐに役立つ最新教育情報を満載してお届けします!

発行人/中川栄次 編集人/内藤祐宏
編集・デザイン/新学社編集部, 株式会社 ひでみ企画 印刷/大平印刷株式会社
発行所/株式会社 新学社 TEL. 075-581-6111(代表)

京都 〒607-8501 京都市山科区東野中井ノ上町11-39

東京 〒162-0841 東京都新宿区払方町14-1

新学社ホームページ <https://www.sing.co.jp>

◆本書の内容についての責任はいっさい新学社にあります。お問い合わせは、当社編集部へおよせください。
◆本書の全部または一部を複製・転写して使用すると著作権法違反となり罰せられます。

表紙写真...©R.CREATION/orion/amanaimages

学力向上・確かな教材

日協
(社)日本図書教材協会